

### ③ 職員による橋梁の点検のとりくみ

平成 21 年度から橋梁の老齢化に向けた点検の取組として、建設後 40 年以上を経過した橋梁(2m 以上)約 320 橋を対象に、1 回/年の職員による橋梁パトロールを実施してきました。また、平成 24 年度からは橋梁定期点検作業に職員が立ち会うこととしました。今後益々橋梁の老齢化が進む中、道路橋の長寿命化修繕計画に基づいた計画的な橋梁補修が必要であり、その基礎資料となる点検・診断の結果の信頼性を向上することが重要となります。職員が橋梁の点検に立ち会うことで、点検・診断の信頼性を向上させるとともに、職員自らが橋梁の損傷状況を把握し、重篤な損傷の有無等についてある程度の判断ができるように技術力の向上を図ることも重要です。



橋梁点検車による点検状況



リフト車による点検状況



梯子による点検風景



特殊高所作業技術<sup>※</sup>による点検風景

※足場を用いることなく橋梁や構造物にロープでぶら下り、上下左右に移動し、調査・点検・施工を可能にする技術



職員による点検立会風景

## ④国道 19 号桜通自転車道の整備

国道 19 号桜通自転車道は、平成 20 年 1 月に国土交通省と警察庁が合同で、自転車通行環境整備の模範となるモデル地区として全国 98 箇所を指定した中の 1 地区で、平成 20 年 11 月には学識経験者、経済団体、自転車団体、障害者団体、道路管理者、警察等で構成される「国道 19 号桜通自転車安全利用協議会」を設立し、社会実験等を含めた協議を経て、平成 23 年 6 月に自転車道として、自転車通行空間(L=0.8km)を整備しました。

なお、整備予定区間のうちの未整備区間(L=1.2km)については、引き続き、協議会で整備方針を検討し、平成 26 年度までに自転車通行空間の整備を実施する予定です。

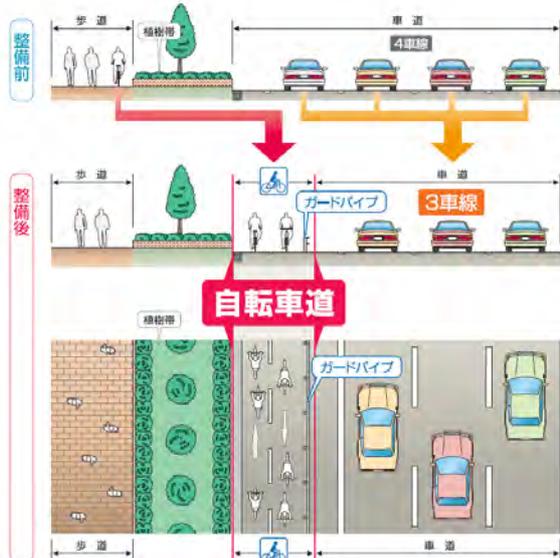
### 自転車道の概要

- ◆整備予定区間: 国道 19 号 日銀前交差点～小川交差点 約 2.0km
- ◆事業着手年度: 平成 20 年度
- ◆供用予定年度: 平成 26 年度
- ◆整備済区間 : 国道 19 号 日銀前交差点～桜通大津交差点 約 0.8km  
供用開始 : 平成 23 年 6 月 25 日



### 整備断面

- ◆車道を現況の片側 4 車線から 3 車線へ削減
- ◆1 車線分の道路空間を幅員 3.0m の双方向自転車道
- ◆第 1 走行車線とはガードパイプで分離



### 整備状況

単路部



交差点部



バス停部



駐輪場

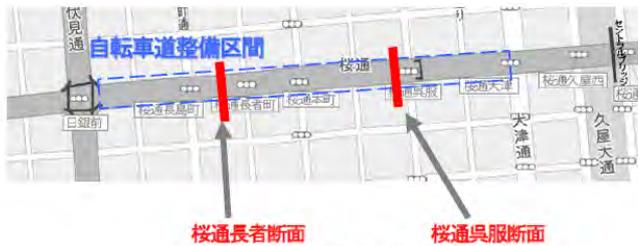


## 整備後の状況

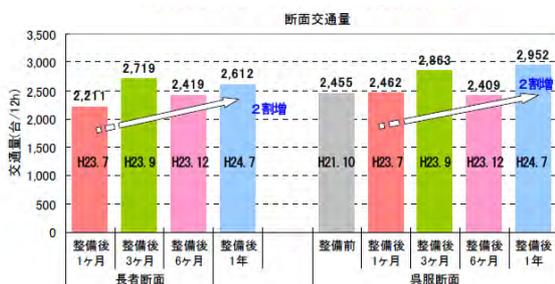
### 1) 供用開始1年後の調査結果

#### ◆自転車道の交通量

整備後1年の自転車道の交通量は、整備直後(整備後1ヶ月)と比較し、約2割増加しています。



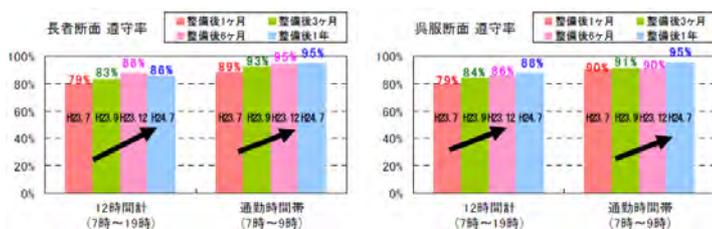
調査位置図



自転車道の交通量

#### ◆自転車通行空間の利用率

整備後1年における自転車道の利用率(自転車が自転車道を利用する率)は8割以上、通勤時間帯(7~9時)では9割以上となり、整備後6ヶ月調査時よりも向上しています。



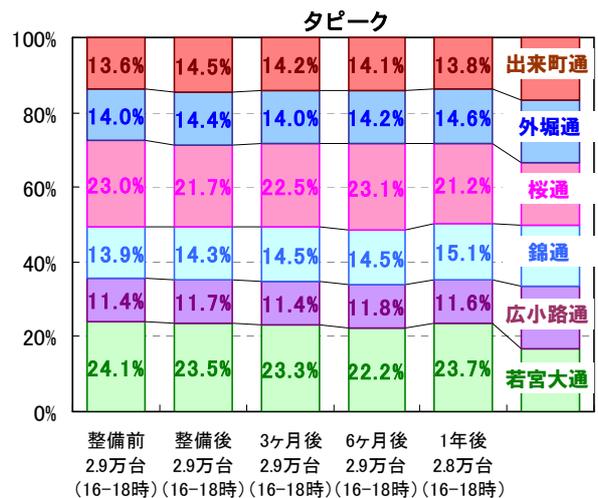
自転車通行空間の利用率

#### ◆車線削減による影響

自転車道の整備に伴い、車線を削減しましたが、ピーク時交通量の分担状況は、これまでの調査時と同様、大きな変化は見られず、国道19号(桜通)の交通が他の路線に回るような変化は見られませんでした。

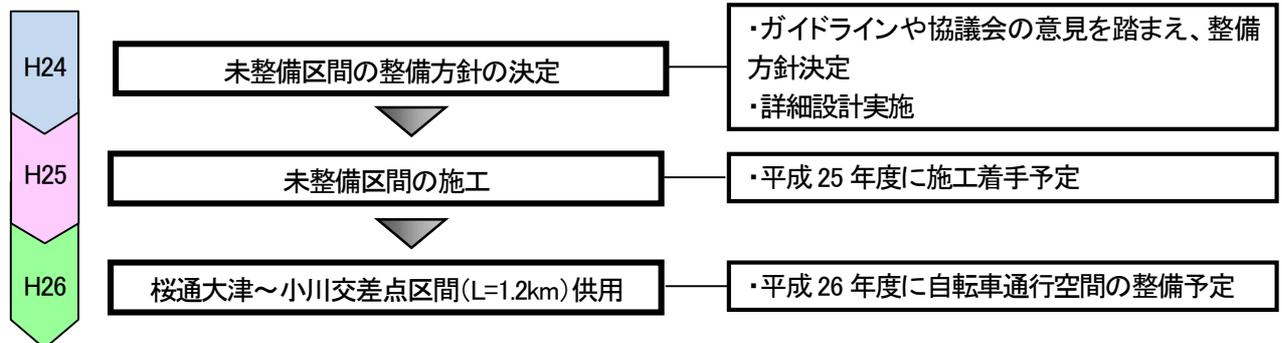


調査位置図



平行路線との交通量の分担状況

### 今後の取り組み予定



## ⑤ 国道 23 号 環境施設帯整備

### ○環境施設帯整備状況

平成 13 年度の和解条項を踏まえ、37 地区の整備候補地区を決め、アンケートによる整備優先順位を基に順次事業を進めています。現在、25 地区で事業に着手し、平成 23 年度末時点で 16 地区(優先整備地区 8 地区、モデル地区 6 地区、優先整備同等地区 2 地区)において完成及び概ね完成(概成)となっており、今後も順次事業を進めていきます。

品川地区(H18 完成)



遠若地区(H20 完成)



築盛町・いろは町・中川本町地区(H21 概成)



千鳥東地区(要町:H22 概成)



西森前地区(H22 概成)



東築地北・南地区(H23 概成)

